

◆32 番（森田卓司議員） 皆様こんにちは。昼から 1 番目の質問者になります新風会、森田卓司でございます。

通告に従いまして質問に入ります。

まず、防災、減災（ライフラインを含む）についてお伺いいたします。

きのうからきょうにかけて新聞、テレビで報道されていますが、北海道、また東北で多くの雨が降って多くの被害が出ているとの報道もされておるところでございます。

また、先日の新聞に、多数の犠牲者が出た広島市の土砂災害をもたらすなど西日本を中心とする 8 月豪雨や日照時間が少なかった気象状況について、気象庁の異常気象分析検討会は、30 年に一度の異常気象だったとの見解をまとめた、これは産経新聞の記事でございますが、掲載されておりました。

災害に対する備えは、避難経路等自分のことは自分で、家庭、地域で日ごろから考えておくことが一番であることは十分認識した上でお尋ねいたします。

ア、避難所の設置は、小・中学校施設を中心として指定していると示されていますが、避難場所誘導標識及び避難地内案内板は、全ての小・中学校に設置されているのでしょうか。また、御津、建部を含む合併地域には設置されていませんが、その理由をお示しくください。

イ、非常用物品の備蓄場所、備蓄品等は、各町内会長には徹底されていますでしょうか、お示ください。

ウ、本年度 20 カ所で防災キャンプが開催、また計画されていますが、参加された方の感想、そして当局の現状認識と課題についてお示ください。

次に、ライフラインの一つ、水道事業についてお伺いいたします。

岡山市水道局のホームページによると、地震等の災害時に水道施設が被害を受け断水した場合に、市民の皆さんに飲料水をお配りする主な給水場所は、岡山市では市立小・中学校ですと掲載されております。災害時に水道施設が被害を受けることは、住民にとって非常に心配するところでございます。

平成 10 年 10 月の台風 10 号の直撃により、岡山県内は甚大な被害を受けました。建部町でも、旧建部町ですね、旧建部町でも浸水 152 世帯、水道断水 1,863 戸、停電 737 戸と大きな被害を受けたことは今でも忘れることができません。

さて、建部地域の水道は、川口浄水場から川口配水池を經由して品田橋へ橋梁添架された配水本管により、建部・福渡地域ほか南部地域に給水されております。平成 10 年に流失した品田橋が同様に流失することは考えられませんが、本年 2 月には旭川右岸の市道建部町品田 10 号線がのり面の大崩落を起こし、NTT 回線が不通になる等、現在も通行どめの状態です。急峻な場所を切り開いた道路であり、いつ次の崩落が起きても不思議ではない道路に配水本管が埋設されています。

議員の皆さん、行かれたことがあるかどうかわかりませんが、この場所は、B & G 海洋センターというグラウンドゴルフとかソフトとかいろんなことをする場所のちょっと北側

に品田橋というのがありまして、品田橋で旭川を渡って品田という地域があるんですけど、地元では元品田と言っております。元品田というところを通って旭川の右岸を配水本管がずっと埋設されておって、それで……、わかりにくくなりましたかね、かえってわかりにくくなりましたか。(笑声) わかりやすく説明しようと思っていたんですが。

そういうことで、本当に日ごろ人とか車が余り通らない市道でございまして、整備がなかなかできない状態で、今も言ったように崩落を起こした現場も通行どめになったままでございます。平成10年のときはその品田橋が流れて橋梁添架していた配水管も一緒に流れて断水したということでございます。

そこでお尋ねというかお願いになりますが、国道53号線に配水本管を布設がえすることで、地域住民が安全・安心に給水を受けることができると考えますが、御所見をお聞かせください。

次に、指定管理者制度についてお伺いたします。

2014年岡山市議会発行の市政のしおりによると、公の施設の指定管理者導入施設は、平成26年4月1日現在で359施設、58.9%と示されています。

そこでお尋ねいたします。

1、現状の指定管理者制度についての御所見をお示しください。また、今後も公の施設の指定管理者の導入は続けていくのか、お聞かせください。

2、指定管理者の指定には、市議会の議決が必要であります。特に地域の方々が利用する施設の指定管理者の指定に当たっては、審査事項の自主事業計画を含む施設利用の促進等効用最大化に向けた努力、また協働性については公開すべきではないかと思うが、御所見をお示しください。

次に、たけべの森公園についてお尋ねいたします。

平成25年度より指定管理者によって運営がされているたけべの森公園であります。指定管理を受けた早々には、たけべの森公園にとって最大のイベントであり、最も集客が見込まれるたけべはっぼね桜まつりが開催され、指定管理者にとっては戸惑うことも多々あり、地元の関係者とのトラブルも発生したとお聞きしていましたが、今年度の同イベントは大きなトラブルもなく順調に開催されたと私自身は思っております。今後も、建部町時代から続くこうした行事が地元と協働して引き継がれていくことを願っています。

さて、ことしの夏は全国的に雨が多く、全国の海水浴場等を利用される方々が減少している等の報道もあります。たけべの森公園では、夏の間はプールの営業もあり利用者がふえる季節ではありますが、残念ながらことしに限っては減少しているのではないかと考えておりますが、指定管理者制度に移行して2年目を迎えたことから、幾つか質問させていただきます。

1、入園者の状況について、指定管理移行前と移行後の入園者数をどのように分析しているのか、お聞かせください。

2、先日、たけべの森公園にお邪魔したときの様子ですが、従前なら管理されていた芝

生広場の管理に明らかに手入れ不足なところが見受けられましたが、御所見をお聞かせください。

3, 指定管理に移行したとはいえ、岡山市の施設として公園の管理や運営をしっかりと行っていく必要があると思うが、御所見をお示しください。

最後に、移住、定住等についてお伺いいたします。

岡山市は、全国的にも有利な多くの条件を背景に移住・定住対策に取り組んでいます。

そこでお尋ねいたします。

1, 移住、定住について、メルマガ等で発信されていますが、取り組み状況と課題をお示しください。

2, 移住、定住に対する事業は、岡山市にとっても重要な事業であり、推進していかなくてはならないが、今岡山市に住んでいる方がいつまでも住み続けることができる対策、特に若者、子育て世代の方々が安心して生活できる環境を考えるべきだと考えるが、いかがでしょうか。

これで1回目の質問を終わらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○羽場頼三郎副議長 当局の答弁を求めます。

[大森雅夫市長登壇]

◎大森雅夫市長 それでは、森田議員の質問にお答えいたします。

私は、指定管理者制度についての所見と、今後の方針というようなことでお答えしたいと思います。

御存じのように、指定管理者制度は公の施設について民間事業者等の有するノウハウを活用し、施設の効率的な運営、効果的な管理運営を行っていかうというものであります。岡山市においても、こういった制度の趣旨に沿った効果が見込まれるものについては積極的に導入を図ってきているところであります。一定の成果も上がっているのではないかと考えております。今後ともこのような公民連携といいますか、民間のノウハウの活用という視点を踏まえて、市民ニーズにお応えできるように引き続き積極的に活用していきたいと思っております。

以上です。

◎奥野淳子危機管理担当局長・女性が輝くまちづくり担当局長 1, 防災、減災についての項、全ての小・中学校に誘導標識や案内板を設置してあるか、御津、建部の合併地域にない理由はとのお尋ねでございます。

災害時に避難所となる小・中学校の体育館への誘導標識や案内板の設置は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を踏まえた宝くじにかかわる助成制度等により整備を行っ

たものですが、合併より以前に整備をやめております。その後、新規での整備を行っていないため、御津・建部地区にも設置しておりませんが、現在岡山市では各種ハザードマップに災害種別ごとの避難所を掲載し全戸配布するとともに、防災に関する市民説明会、出前講座等で地域のハザードマップを配布してまいりました。今後も出前講座等でハザードマップ等を利用して避難所の情報等について、みずから取得していただく重要性を周知してまいりたいと考えております。

次に、備蓄場所、備蓄品等のことが各町内会長へ徹底されているのかのお尋ねでございますが、災害時には避難所となる小・中学校の体育館へは、市の職員が毛布や水、食料などを持って開設に向かうこととしており、その後の備蓄物資の運搬も市が行うこととなっております。また、このことについては、折に触れて地域にもお伝えしているところであります。

以上でございます。

◎酒井五津男水道事業管理者 同じ項、建部地域の水道事業についてのお尋ねにお答えします。

建部地域の3分の2の世帯は品田地区内の旭川右岸道路に布設している口径300ミリメートルの主要配水管から給水しております。議員御指摘のとおり、当該道路はこれまで何度か崩落事故があり、今後新たな崩落が発生し、配水管が破損した場合、広範囲にわたって断水することとなります。

その対応策として、当局では国土交通省等の関係機関と協議を進めた結果、配水管の代替ルートとして旭川左岸にある川口配水池から市道、県道落合・建部線及び国道53号線を経由して新八幡橋付近までを平成27年度、来年度から3カ年で整備する計画にしております。引き続き、建部地域の安定給水の確保を図ってまいりたいと思います。

以上です。

◎荒木誠岡山っ子育成局長 同じ項、防災キャンプに参加された方の感想は、それから現状認識と課題はとのお尋ねにお答えいたします。

防災キャンプは、青少年の健全育成を主眼に、公民館を中心に地域団体などによる実行委員会が体験を通じて防災意識を高める事業であり、平成24年度からスタートし、今年度末までに市内36中学校区のうち23中学校区で実施する予定となっております。参加された方からは、学んだことを家族でもう一度話し合いたい、地域でみんなが助け合う意識が欠けていた、自分の命は自分で守らなければいけないと思ったなどさまざまな感想をいただいております。

課題としましては、子どもや若い世代の参加率が低いこと、継続して開催できる体制づくり等が挙げられます。

以上でございます。

◎深澤正志財政局長 2つ目の指定管理者制度についての御質問のうち、指定管理者の指定に当たっては自主事業計画を含む施設利用の促進等効用最大化努力、協働性について公開すべきではないかとお尋ねにお答えいたします。

応募者が岡山市に提出する事業計画書等には、個人情報や法人情報等も含まれており、その全てを一般に公開することは適切ではないと考えております。

その中で、議員御指摘の自主事業については、本市が実施を求めている指定管理業務を妨げない範囲で指定管理者自身の責任と負担において実施されるものであることから、これまではその内容の公開を想定しておりませんでした。指定管理者の候補者選定において自主事業等も評価の対象としている施設もあることから、今後導入を検討している指定管理者の評価制度とあわせ情報公開のあり方についても検討してまいりたいと考えております。

以上です。

◎山崎康司都市整備局長 3つ目のたけべの森公園についての項、入園者の状況についてどのように分析しているか、芝生広場の管理に手入れ不足なところが見受けられるが所見を、岡山市の施設として管理運営をしっかりと行っていく必要があると思うが所見をとのお尋ねに一括してお答えいたします。

たけべの森公園の入園者につきましては、指定管理移行前の平成24年度は約3万2,000人でしたが、移行した平成25年度は約3万4,000人となっております。入園者の状況は、議員御案内のたけべはっぼね桜まつりや、ゴールデンウィーク、夏休み期間中のキャンプ場利用、また夏のプール利用などに集中しており、近年同じ傾向にあると認識しております。

次に、御指摘の芝生広場の管理ですが、ことしは悪天候が続いたため作業がおくっていましたが、9月1日より芝生広場などの除草や芝刈りに取りかかり、現在はおおむね作業を完了したところです。

最後に、今後の管理運営についてですが、指定管理に移行したことから、民間のノウハウを生かした公園の魅力向上に努めていただくとともに、市の施設としての適正な管理についても変わらず取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎田中利直政策局長 4番の移住、定住等についての項のうち、取り組み状況と今後の課題についての御質問にお答えいたします。

本市では、昨年度から移住・定住支援室を設置するとともに、都市整備局や経済局を初めとした庁内関係部署の職員で構成するプロジェクトチーム、移住・定住手伝い隊を立ち上げ、移住、定住に関するさまざまな相談にワンストップで対応するなど、本市へ移住、

定住を希望される方への支援に取り組んでおります。

また、今年度には、官民協働での移住・定住支援の取り組みとして、本市のほか民間の移住者支援団体等で構成する岡山市移住・定住支援協議会を立ち上げるとともに、5月からは市域を越えた移住・定住支援の取り組みとして、岡山市や倉敷市などの県内8自治体と不動産業界団体が協力して、県外からの移住希望者を対象に不動産物件情報を提供する移住・定住のための住まい探しの支援サービスを開始したところであり、その後新たに県内の3つの自治体が加入したことで、本市を含め11の自治体にサービスの輪が広がっております。

このようにさまざまな移住・定住支援の取り組みの効果もあり、本市への移住相談件数は、室を設置する前の平成24年度が月平均約3件であったのに比べ、昨年度は月平均25件、さらに今年度に至っては月平均35件を超える状況となっております。また、本市における住まい探しの支援サービスの利用実績は、本年度のサービスを開始以降、約70件に達しております。

一方、情報発信の取り組みについてですが、現在本市では市のホームページやメールマガジン、パンフレットを通じて移住、定住に関する情報を発信しているほか、先ほど申し上げました岡山市移住・定住支援協議会の各会員が運営するホームページやメールマガジン等でも情報発信を行っているところです。中でも、昨年8月から実施しております岡山市移住・定住応援メールマガジンへの登録件数は順調に伸び続けており、現時点で約780件の登録がございます。

このほかに、今年度実施する主な事業といたしましては、本市主催による東京での移住相談会、市内をめぐる移住先の下見ツアーを行うことにしております。移住相談会につきましては、この8月9日に第1回目を開催し、相談会にはこれまでに本市が参加した各種移住相談会における最多相談件数の53組を上回る69組の方々からの相談があり、過去最多の件数となりました。また、下見ツアーにつきましては、10月18日、19日での開催を予定しており、非常に多くの方々からお申し込みをいただいております。

今後の課題につきましては、移住を希望される方の相談や支援のニーズが仕事や住まいを初めとして多岐にわたり、行政だけで役割を担える部分には限りがあるため、官民協働で支援を充実していく必要があります。そのため、移住を希望される方がスムーズに移住、定住できるよう、今後も岡山市移住・定住支援協議会を中心に支援の内容を検討してまいりたいと考えております。さらに、移住を希望される方の多くは、1つの市町村だけでなく、例えば県南エリア、県北エリアといった広い範囲で移住先を検討されるため、住まい探しの支援サービスを初めとして引き続き県内の自治体と協力しながら支援を行っていく必要があると考えております。

また、情報発信につきましては、住みやすさなどの本市の魅力や移住・定住支援の取り組みをより広く県外の方々に知っていただけるよう発信していく必要があると考えており、本年度中に公開を予定しております本市の移住、定住に関する情報をまとめた専用ウェブ

サイトや移住関連雑誌への記事掲載など、各種メディアを活用した情報発信を強化してまいりたいと考えております。

次に、同じ項で、若者、子育て世代の方々が安心して生活できる環境を考えるべきとの御質問にお答えいたします。

若者、子育て世代を初め全市民が住み続けたいと思うまちにするためには、安心して子どもを産み、育て、働ける環境の整備や医療、福祉の充実などが重要であり、子育て支援策や経済・雇用対策を初めとして岡山市の都市としての魅力を総合的に高めるまちづくりを行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔32 番森田卓司議員登壇〕

◆32 番（森田卓司議員） 御答弁ありがとうございました。

まず、水道事業管理者、ありがとうございます。本当に、合併してよかったとか悪かったとかいろんな意見はまだまだあるわけですが、もし合併していなければこういうふうな事業は多分できなかったというか、できなかったのではないかと私は思っております。そういう意味では、岡山市と合併してスケールメリットを生かしてこういう大きな何億円単位の事業だと思うんですが、金額はわかりませんが、安心して住めるような事業をしてくださることに対して、本当に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、最初の防災の件で、誘導看板でございますが、合併前の事業であり、今は看板を設置することはできないとのことでありました。もちろん避難場所というのは、局長が言われたように地域の方は小学校がどこにあり中学校がどこにあり何がどこにあるというのはほとんどわかっておられると思います、中学校単位で。そういう中で、今回周辺地自治体との連携とかそういう質問がよく出ておりますが、そういうとき、例えば 53 号線を使って、建部とか御津とかの話をする、津山のほうから来たり鳥取のほうから来たりする方に対して、そこで、さっきも言いましたが、北海道で大雨が降って、その地域の中だけの方がそこを通るわけじゃないじゃないですか。だから、通りかかった人が避難所があるところにあるということがわかる、そういうふうな看板はぜひとも必要なんではないかと思いますが、御所見をお聞かせください。

◎奥野淳子危機管理担当局長・女性が輝くまちづくり担当局長 おっしゃるように、災害はいつどこで起こるかわかりませんので、そういう土地カンのないところへ行ったときに災害に遭うことも十分考えられます。ただ、そういったときには、誰かに尋ねていただき助け合っていていただくとか、車のナビであったり、携帯の地図情報であったり、そういうものをもっていただくとか、いろいろな方法が考えられると思うんです。大切なのは、やはり一人一人の方が災害の種別であるとか、さまざまな場面であるとか時間帯、そういつ

たことを想定して、災害時にどういった行動がとれるのかということを考えていただく、そういった備えの意識を持っていただくことが大切なんだということの周知をしっかりとこれからも図っていきたいと、そういうふうを考えております。

以上です。

◆32番（森田卓司議員）　ちょっと端的にお聞きします。

誘導看板は必要であるか、必要でないか、どのようにお考えでしょうか。

◎奥野淳子危機管理担当局長・女性が輝くまちづくり担当局長　あるものは十分それを使って避難のときに利用していただければいいと考えておりますので、必要ではあると考えております。

以上です。

◆32番（森田卓司議員）　先ほど、水道の話をさせていただきましたが、必要であると考えれば、もう、水道の場合、単市の予算かどうかわかりませんが、ちょっと聞いていないんですけど、単市の予算でも誘導看板をつくるべきじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

◎奥野淳子危機管理担当局長・女性が輝くまちづくり担当局長　今あるものを使ってということで、必要性はあるとは考えているんですけど、今のところ新設は考えておりません。

以上です。

◆32番（森田卓司議員）　堂々めぐりになりそうなので、また叱られそうなので、堂々めぐりはいたしません、誘導看板についてはまた質問させていただくことがあるかもわかりませんので、考えておいてください。

それで、一つだけ、これは質問というより、私この看板の件でたまたま通う中学校区で見て回ったら、避難誘導標識ではなくて避難地案内板というのが学校の前に、これは全校じゃないと思いますけれど、学校の内部の地図とか図面を描いてあって、そこにここに体育館があつてとかというような、そういう看板がありました。それが、平成7年に一緒にできたものであるんでしょうね、剥げ落ちて、もう何が何やらわからんようになったところもあります。そうかと思えば、ぴちっときれいな看板もありました。だから、やっぱりせっかくあるんだから悪い看板はきれいにして使やええじゃないですか。一回点検をされてみたらと思います。

そういうことで、避難場所誘導看板の件は、また次の機会にということにさせていただきます。



備蓄の件です。

避難所となる小・中学校への備蓄も必要だと思います。先ほど竹之内議員への答弁をされていたかも知れませんが、避難場所が小・中学校になりますよね。その小・中学校の余裕教室等への配備はできないでしょうか。

◎奥野淳子危機管理担当局長・女性が輝くまちづくり担当局長 おっしゃるように、避難所となる小・中学校へ備蓄があるということは望ましいと考えておりますので、現在教育委員会と協議を行っているところでございます。

以上です。

◆32番（森田卓司議員） 教育長にお尋ねいたします。

そういう、ちょっとこれは離れますが、学童保育の空き教室はなかなかないとかとよく言われるんですけど、そういう備蓄の場所は確保できるんですか。

◎山脇健教育長 備蓄、避難の場合の備蓄のものを共生というお尋ねでございますが、これも今各学校それぞれの教室の使用状況というのを調べております。この使用状況をもとに、教育委員会としてもこれからさらに聞き取り調査も一個一個やっていながら、この備蓄の関係、また児童クラブの関係もございまして、それは担当、関係部局ともそれをもとにしてまた協議していきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

◆32番（森田卓司議員） 学童保育も、それから備蓄の件も非常に重要な課題でございます。教育委員会の強い指導というか、学校側との話し合いを求めるところでございます。これは要望でしておかんと、線から離れたら困りますので。ぜひしっかりと話し合いを行っていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

防災キャンプに移ります。

防災キャンプ、今回、ことしが20カ所。未実施の地域に関してはどのように対処されるのか、お示してください。そして、何が原因で実施ができないのか、お示してください。

◎荒木誠岡山っ子育成局長 未実施の地域に関して、原因とその後の対処ということで質問いただきました。

本事業は、地域で実行委員会を結成して市民協働で取り組んでいるところであります。地域や個人によって防災の問題意識に差があるということが原因の一つと、それからこの事業は6時間以上の体験学習プログラムということで、子ども相手には長い拘束時間が少し厳しいのかなということが原因の一つと認識しております。

今後実施する方策として、継続して研修や講座の実施を進めることによって、市民に自

助、共助による防災の機運醸成を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆32 番（森田卓司議員） この防災キャンプの事業は、今後も継続して実施されるのでしょうか、いかがでしょうか。

また、今後も継続して実施されるのであれば……（「議長、二問二答になりよる」と呼ぶ者あり）一問……（「一問二答やね」と呼ぶ者あり）ちょっととめてもらっていいですか、時間。（「一問一答です、議長」と呼ぶ者あり）はい。じゃあ、キャンプは継続して実施されるのでしょうか。

◎荒木誠岡山っ子育成局長 今後、防災、減災の意識の醸成を図るために、今後は事業内容の見直しを含めてどういう方法がいいのか、やり方について検討して、また継続してやっていきたいと考えております。

以上でございます。

◆32 番（森田卓司議員） そうであればですね、今回私この防災キャンプの質問をするに当たって、岡山市のホームページのトップページに、緊急・防災ということで防災情報というコーナーのバナーがあります。そこを見たら、どうしても防災キャンプというのが出てこなくて、サイト内検索で防災キャンプというのを開いたら出てきて、それを見たら、私の勉強不足ではございますが、岡山っ子育成局のホームページの中に入っていて、それが出てきたわけです。ホームページの防災情報に防災キャンプの情報も張りつけるべき、リンクするという言葉がいいんですか、リンクするべきではないでしょうか。

◎奥野淳子危機管理担当局長・女性が輝くまちづくり担当局長 おっしゃるように、防災関連の情報として危機管理室のホームページからも閲覧ができるように岡山っ子育成局とすぐに調整してまいります。

以上でございます。

◆32 番（森田卓司議員） じゃあ、指定管理で、公の施設に指定管理者制度を導入する場合の順序はどのように決められるのでしょうか。何かルールとかというのがあるのでしょうか。

◎深澤正志財政局長 指定管理者を導入する順序、ルールというお尋ねですけれども、特にこういうところを入れていくということはありませんが、これまで直営であったところについては指定管理者制度を導入することで効果が見越せるかというふうなことを一つ一つ検討しながら導入を図ってきているということでございますので、どういう順番でと

いうのはございません。

以上です。

◆32 番（森田卓司議員） 自主事業の計画については、指定管理評価制度を導入するということによかったですよ。導入を検討するということによかったですよ。

◎深澤正志財政局長 先ほど御答弁したとおりでございますが、今後の指定管理者の評価制度とあわせて情報公開のあり方についても検討してまいります。

以上です。

◆32 番（森田卓司議員） この自主事業の配点を見ると、かなり 100 点とかというような高い配点になっております。だから、そういう事業を公開とかどういうことをするかというのをやっぱり議員である我々が議決するわけですから、それを本当に実施できたのか実施できなかったのかというようなことが重要なことになってくると思います。だから、これはやっぱり公開できるものは公開して、こういうことを約束しているけどやっていないじゃないかというようなことにならないようにしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎深澤正志財政局長 ただいまの議員の御指摘も踏まえてしっかり検討してまいりたいと思います。

以上です。

◆32 番（森田卓司議員） 国の新内閣では地方創生担当相というのが新設されました。岡山市でも、過疎化が進む地域の担当部署を新設したらいかがでしょうかと思いますが、どうでしょうか。

○羽場頼三郎副議長 森田議員、今の質問は、今までの質問と関連していますか。

◆32 番（森田卓司議員） 移住、定住の中で、最初に、移住・定住対策事業は岡山市にとっても重要な事業であり推進していかなければで、今住んでいる方が安心して住み続けることができる環境をつくるべきではないかということを質問しておりますので、私は関連していると思いますが、もし関連していないと言われるんなら、議長にお任せします。（「答えてもらやええんじゃ、答えてもらえ、手を挙げようたが」と呼ぶ者あり）

○羽場頼三郎副議長 答えれますか。

◎福山潔行政改革担当局長　移住，定住，それから建部，過疎ということで，過疎地の対策も含めて人口減少対策というものがこれから重要になってくると思います。組織については，今後の検討課題としたいと思っております。